

# 春の総会及び研修会

日時：平成18年4月26日(水)10:30～16:00  
場所：嵐山らんざん

## 講演テーマ 『石油ショック』 — 21世紀は資源争奪の時代 —

講師：京都大学大学院研究科 社会基盤工学専攻教授 芦田 譲 先生



最近の油価の高騰を受けて、オイルピークに関する議論が盛んに行われている。オイルピークとは世界の石油生産がピークを迎えたというものである。

1930年～2004年までの石油の発見量と生産量をみると、発見量のピークは1967年であり、1982年には発見量と生産量が同量になり、その後は生産量の方が発見量を上まっています。



石油の究極埋蔵量の予測に対しては、一番悲観的なキャンベルは1.8兆バレルだとし、一方、楽観論はアメリカの地質調査所である。彼らは数学的なモデルではなくて、探鉱、堆積盆地のデータを用いて推定し、究極埋蔵量は3兆バレルであるとしている。

1.8兆バレルで可採年数が41年だとすると、3兆バレルを単純に比例計算すると68年になる。41年が68年になるだけで時間稼ぎはできるが根本的には変りはない。

石油がなくなっても天然ガスがあるという話がある。天然ガスは石油とともとで産出される。しかし、可採年数とは確認埋蔵量をその年の生産量で割った値であるから、石油が少なくなって天然ガスをどんどん使い、例えば、生産量が年間5%にずつ増えていくと、180年といっても40年になる。

1997年12月、気候変動に関する国際連合枠組条約の京都議定書において、我国は2008～2012年の平均で炭酸ガスの排出量を1990年のレベルに対し、6%削減すると約束した。この条約は2005年2月にロシアが批准したことにより発効した。その削減目標の達成に向けて、我国でも各種の取組がなされている。しかし、2006年末において、炭酸ガスの排出量は1990年に比べて、約8%増加しており、京都議定書の公約を守るには14%削減しなければならないというのが現状である。

従来のエネルギーは高いエネルギー密度で存在し、市場が形成され高収益である。一方、自然エネルギーは低エネルギー密度ではあるが、広く分布し再生可能である。しかし、低収益であり、市場競争力も弱い。環境へのメリット、地域、地域経済への貢献が期待できる。今後は、地域のための地域のエネルギー、食糧の地産・地消を目指した自給自足・地域分散型社会の構築が必要である。そのために、地域の特性を把握し、地域で活用できるエネルギーを活かし、20～50万人規模の中核都市を形成すべきである。

石油、天然ガスや石炭は地球が数千年から2、3億年をかけて作りあげたものである。我々は、それをこの100～200年の間で使用し、現在の文明を築いてきた。しかし、地球も含め全て有限であり、有限なものには必ずその生産、使用の段階においてピークがある。ピークとかバブルはその真只中にあるときはそれと気付かず、それが過ぎたときにあのときがピークだったとかバブルだったと気がつくものである。したがって、先を予測し、リスクマネジメントを行い、それがStrongなのか、Weakなのか、OpportunityなのかThreatなのかを分析し、対策を練らなければならない。環境破壊という負の遺産を残し、後世の子孫から20世紀と21世紀の人類は何と何とすることをしてくれたのかという非難を受けないようにすべきである。(芦田先生記)

### 講師プロフィール

昭和18年11月19日生(61歳)昭和42年3月京都大学理学部地球物理学科卒。石油資源開発(株)を経て、昭和61年京都大学工学部講師、平成8年京都大学大学院研究科資源工学専攻教授を経て、現在同大学社会基盤工学専攻教授。東京大学工学博士。物理探査学会論文賞、同功労賞各賞を受賞。日本学術会議第19期会員、(社)物理探査学会前会長他、多数の役職を務められ、又、「土木・建設技術者のための物理探査」「地環境情報学」など、多数の著書がある。

### ■ 時雨殿(見学会)

嵐山の新名所であります百人一首のテーマパークへそれぞれグループでの見学会をいたしました。時雨殿は、小倉百人一首の魅力と新しい発見がいっぱい詰ったエンターテインメントの空間です。

殿堂と名の付く堂々たる建造物もさることながら、藤原定家の日記(明月記)王朝の歌人たちとの優雅なひとときを楽しみつつ充実した見学会でした。



花の色は  
うつりにけりな  
いたづらに  
わが身にふる  
ながめせしまに  
小野小町

## ごあいさつ



海外研修KYOのあけぼの会  
会長 田中 田鶴子

会員の皆様におかれましては、お変わりなくお元気でご活躍のことと存じます。

日頃は、当会の活動にご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、今年度は大きな事業の一つとして、京都商工会議所女性会との共催で「スイス・チューリッヒ、ジュネーブ」への研修旅行を企画いたしました。7年前の研修会でご講演いただいたチューリッヒ在住のピアニストで才媛の親日家の「ラング・イボンヌさん」のご厚意により、チューリッヒの各方面で活躍されている女性の方々と交流会を計画することが出来ました。また、ジュネーブでは国連機関の見学も予定しております。

ご承知のとおり当会は、京都府が実施した女

性海外研修事業の修了生が女性関係団体相互のネットワーク作りや国際交流の促進を目的に活動を展開しております。今回もこの主旨に沿って充実した研修が実施できるのではないかと、期待しているところです。是非、多くのご参加をよろしくお願いいたします。

近年我が国では、男女共同参画社会が進み女性の社会進出が増える一方で、少子化、高齢化も大きな社会の問題となっております。まだまだ仕事と子育てが両立できる環境ではないというのが現状です。このような厳しい現実を見て、子どもを産むことをあきらめた女性も少なくないと聞きます。男女共同参画と少子化対策は「車の両輪」であると言われています。男女ともに働き方の見直しが今後問われてまいります。また、いじめや不登校といった様々な教育問題も大きな課題を抱えています。私たちが国際交流を行う上で、そういった点を認識しながら諸外国の状況を学び社会へ貢献していきたいと存じます。

## 2006年度 総会及び研修会

● 日時：平成18年4月26日(水)10:30～16:00 ● 場所：嵐山らんざん

### 時雨殿 見学

### 総 会

1. 開会
2. 会長あいさつ
3. 来賓紹介
4. 来賓祝辞
5. 議長選出
6. 議事
  - ①2005年度事業報告
  - ②2005年度会計報告
  - ③2005年度会計監査報告
  - ④役員改選
  - ⑤2006年度事業案(審議)
  - ⑥2006年度予算案( // )
  - ⑦その他

### 研修会

テーマ 『石油ショック』  
— 21世紀は資源争奪の時代 —

講 師 京都大学大学院研究科 社会基盤工学専攻教授  
芦田 譲 先生



表題「あけぼの」は、前京都府知事荒巻禎様の直筆で、インドネシア語(京都府友好国)「あけぼの」の意味です。  
京都府に息づく豊かな自然の美しさ、「花」しだれ桜、さが菊、木「北山杉」、「鳥」オオミズナギドリ。を戸塚フランス刺しゅうで表現したものを表紙の「あけぼの」。

